

時代の潮流ととちぎの課題

1「人口減少・超高齢化」

- 人口減少は避けられない
- 少子化・高齢化への対処、人口流出抑制等

2「産業」

- 第1次・第2次産業従事者の減少、人手不足・雇用のミスマッチ
- 人口減少に伴う国内需要の縮小、国際競争の激化、農業等の担い手の高齢化
- 外国人観光客の呼び込み

3「県民生活(健康、就業、教育、県民意識)」

- 健康寿命の延伸
- 女性、高齢者、若年男性の就業率改善
- 子どもの学力・体力の向上
- 愛着心の醸成

4「県土」

- 地域間競争に勝ち抜ける県土づくり
- 社会資本の長寿化
- 災害に強い県土づくり
- 安全で持続可能なエネルギーへの転換や電力自給率の向上

5「地域の魅力(自然、歴史、文化など)」

- ブランド力の向上
- 大型イベントを活用した魅力実力の発信
- 自然、歴史、文化を引き継ぐ

6「行財政」

- 権限移譲への取組
- 選択と集中による行財政基盤の確立

とちぎの将来像(21世紀中頃)

◇次代を拓き、地域を支える人を創る「とちぎ」

- 子どもたち一人ひとりの学力や体力が向上し、豊かな人間性とふるさとへの愛着や誇りが育まれることにより、社会を支え、新しい時代を切り拓く人材が育ちます。
- 経済的安定と子育て環境の充実により、次代を担う若者の結婚や妊娠・出産、子育てへの希望が実現するとともに、女性や高齢者など、すべての県民が持てる力を発揮し、協働しながら活躍しています。

◇多様な産業が雇用を創出し、成長と豊かさをもたらす「とちぎ」

- 本県の強みである、ものづくり産業を軸に、豊かな地域資源を活用した農林業や観光産業、新たな成長分野の産業等が力強く成長し、安定した魅力ある雇用が創出され、若者の定住が進み、県民生活に豊かさをもたらします。
- 若者、女性、高齢者、障害者など、誰もが意欲と能力に応じ、いきいきと働き、地域産業を支える多様な人材が育っています。

◇健康で、安心して暮らすことができる「とちぎ」

- 誰もが、住み慣れた地域で必要な医療・福祉サービスが受けられ、将来の不安なく心身ともに健康を保ち、生涯現役で活躍しています。
- 自助、互助・共助、公助の意識が定着し、共生の考え方の下、地域全体で支え合い、犯罪等も少なく、安心して暮らすことができます。

◇安全で快適な生活と産業を支える基盤が整う「とちぎ」

- 県民の安全で快適な生活を支える社会基盤が良好な状態で維持、保全されるとともに、産業活動や地域間交流を支える基盤となっています。
- 人口減少・超高齢化に対応したコンパクトな都市機能の集積と自立した地域コミュニティが守られるとともに、災害に強く、ヒト・モノを呼び込む魅力ある社会基盤が整っています。

◇豊かな自然・伝統文化を次代に引き継ぎ、人を惹きつける「とちぎ」

- 緑なす山々や清らかな水と空気、それらに育まれた動植物など豊かな自然や、自然と調和した優れた生活空間が次の世代に引き継がれています。
- 貴重な歴史遺産、先人が育んだ豊かな伝統文化などが多くの担い手によって磨き上げられ、本県の魅力となり、ブランド力が向上し、多くの人を惹きつけ、様々な場面で「とちぎ」が選ばれています。

とちぎ県土づくりビジョン(骨子)

- 県土づくりの基本方向
 - ・日本、そして世界の中のとちぎの役割と可能性
 - ・災害や老朽化への対応、人口減少等を踏まえた県土づくり
 - ・新たな価値の創出 等
- 目指すべき県土の姿
 - ・世界・日本の中の県土ととちぎ
 - ・県内のネットワーク
 - ・美しく活力ある農山村、活力をつくり出す都市地域 等

将来像の実現に向けて

「基本姿勢」

- 1 すべての県民が担い手として協働する(全員参加、「自助、互助・共助、公助」)
- 2 すべての地域が連携・協力する(地域資源の活用、連携・協力)
- 3 すべての分野でとちぎの魅力を磨き上げる(ブランド力の向上、発信力)

今後5年間で取り組む「重点戦略」

⇒ 平成27年度に検討

次期プラン【第1次素案】について

- 2月4日開催「第2回次期プラン策定懇談会」における意見等を踏まえた対応
 - ・グローバル化の進展や東日本大震災による本県への影響等の視点を加えて、総論（第1次素案）の「時代の潮流ととちぎの課題」について、一部を再整理する。
- なお、今後、次の視点も踏まえながら、検討を進める。
 - ・栃木県のもつ強み・可能性等を生かす。
 - ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う様々な波及効果を地域の活性化や魅力の発信につなげる。
 - ・国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の本県開催に向けて、魅力と活力にあふれたとちぎづくりを推進する。
- 今後、栃木県版「人口ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の検討等を経て、総論を決定していく。

I 時代の潮流ととちぎの課題（再整理後）

1 時代の潮流

I 人口減少・超高齢化

- 少子化の進行(未婚・晩婚化・晩産化)
- 急速な高齢者の進行
- 若者を中心とする東京圏への転出超過
- 結婚・家族に対する意識や家族形態の変化
- 地域差を伴う人口減少

II グローバル化・産業構造の変化

- 経済のグローバル化による国際間・地域間での競争の激化
- アジア新興国の経済成長
- 農林業従事者の高齢化・後継者不足
- 所得・雇用格差の拡大
- 東京オリンピック・パラリンピックの開催
- 観光客入込数増加に対する宿泊数の回復の遅れ

III 健康・教育・県民意識

- 価値観・ライフスタイルの多様化
- 妊娠・出産・育児期における女性の就業率の低下
- 地元への愛着が他県と比べて低い、地域への貢献意欲は高い
- 東京圏への大学進学者が多い

IV 東日本大震災・エネルギー・安全への意識

- エネルギー供給構造の脆弱性の露呈
- 各種社会資本の老朽化
- 家族や地域との絆の再認識、災害に強い地域づくりに対する意識の高揚、ボランティア活動意識の高まり

V 地域の魅力

- 世界遺産や豊かな自然等、多彩な地域資源
- 全国における本県の認知度の低さ

VI 行財政

- 市町村合併の進展
- 地方分権・権限移譲の推進
- 社会保障関係費の増大

2 とちぎの課題

- 魅力ある雇用の創出・確保による経済的基盤の安定
- 経済・地域活動の担い手確保、住民サービスの維持
- 地域包括ケアシステム・コンパクトシティ等の整備
- 結婚、妊娠・出産、子育てに対する若者の希望の実現
- 定住・U・I・Jターンの促進

- 企業の海外展開や販路開拓
- 外国人観光誘客の促進、観光客の滞在性・周遊性向上
- 1～3次産業のバランスのとれた発展の持続
- 起業促進、新たな成長分野の産業育成
- 農林業の成長産業化
- 成長可能性の高い企業の誘致、中小企業の成長支援
- 所得格差の是正（貧困対策）

- 地元への誇りや愛着心の醸成
- 社会貢献意識の醸成
- ノーマライゼーションの実現
- 健康長寿の推進
- 子どもの学力・体力の向上、県内高等教育機関の充実
- 女性・高齢者・若者の就業率の向上

- 災害に強くしなやかな県土づくり
- 持続可能な再生可能・分散型エネルギーの推進、電力自給率の向上
- 防災意識の醸成、地域住民が支え合う社会の形成
- 社会経済活動や県民生活を支える基盤づくり

- 東京オリンピック等、大型イベント開催を契機とした地域活性化、ブランド力・発信力の向上
- 豊かな自然や歴史・文化の継承

- 地方への権限や税財源移譲の推進
- 選択と集中による効率的な行財政基盤の確立